

日本の知恵、
プラスチックの知恵



香りと風味を護った、 茶貿易の輸送コンテナ

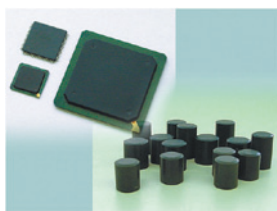
1906年(明治39)、静岡県清水港から日本茶およそ3500箱を積んだ船が、アメリカのシアトルへ向けて出港しました。

指揮を執ったのは徳川将軍家の御用茶を管理した旧家出身の海野孝三郎。海外の日本茶ブームの折に、静岡茶を清水港から直接に輸出する道を開いた実業家です。

彼は茶葉の輸送に江戸時代からの茶箱を使い、カビや湿気で風味が落ちないように火入れをする再製茶工場の開設にも尽力しました。

ちなみに、湿度調整のできるスギ材を使った茶箱の内側には、柿渋紙、後に亜鉛メッキの鉄板などが張られ、保管や保護のための機能が増しました。

現在、情報通信分野で、外部環境からデリケートな半導体を護る機能で高く評価されているのが、住友ベークライトの環境対応型半導体封止用エポキシ樹脂成形材料です。「スミコン」EMEGシリーズは、湿気や衝撃に強く、高い実装性と信頼性があり、世界中のデジタル家電・車などさまざまな暮らしの進化に貢献しています。



半導体封止用エポキシ樹脂成形材料

デリケートな半導体を封止し、湿気や衝撃などの外部環境から保護するエポキシ樹脂成形材料。従来は、臭素系難燃剤なしには実現できなかった難燃性規格の最高峰のUL94 V-0を、住友ベークライト独自の配合技術で達成。その製品開発を通して、臭素系難燃剤不使用ということで、環境負荷低減にも貢献しています。

茶箱